

「じぶんのたんじょうの  
よろこび」

## 1 題材名 「じぶんのたんじょうのよろこび」

## 2 題材について

## (1) 設定の理由



## たいせつないのち

幼児期は、幼稚園生活を通して他の幼児や家族以外の人々とかかわるようになり、他者との関係が広がっていく時期である。同時に自我が芽生え、他者との関係の中で自分との違いに気付き、様々な感情体験を通して自我の発達の基礎が築かれていく。

毎月の誕生会の行事等を通して、自分が周りから期待されながら誕生し、赤ちゃんが母親の胎内で大切に守られ、どれほどの愛情にはぐくまれてきたかなどを知らせることにより、自尊心を育て、自分の誕生や成長の喜びについて感じ取れるようにしたいと考えた。

## (2) 題材構成

- ・年度当初に誕生表を幼児と共に作り、自分や友達の誕生月を意識させていく。
- ・友達をお祝いする気持ちをもち、毎月の誕生会を自分たちで進めていくようにする。
- ・保護者から赤ちゃんの時の写真を借りて掲示し、各自の赤ちゃんの時の話や名前の由来を話してもらう。(資料1)
- ・身体計測などの際に自分の体の成長が実感できるように知らせたり、どのくらい大きく、または重くなったか目安となる物を置いたりする。
- ・「おかあさんがおかあさんになったひ」「おとうさんがおとうさんになったひ」などの絵本の読み聞かせをし、赤ちゃんの誕生や両親の思いなどを知らせる。(資料2)
- ・赤ちゃんが生まれたばかりの保護者の話を聞く。(本時)
- ・保護者に指導内容を伝え協力を求めるとともに、関心を高めてもらう。

## 3 目標

- (1) 自分が望まれて生まれてきたかけがえない存在であることを感じる。
- (2) 自分の命が周りの人々に大切にはぐくまれながら成長してきたものであることを知る。

## 4 指導展開例

	教師のかかわり	幼児の活動	留意点
導入	前回の絵本のことを思い出させ、本日はなぜお客さんと呼んだのか知らせる。 保護者と赤ちゃんに保育室に入ってもらおう。	絵本のことを思い出し、うなずいたり、誰がお客さんなのかわくわくしたりしている。 立ち上がって笑顔で歓迎する。 ・Aちゃんのお母さんだ	・本時は、赤ちゃんとその保護者(在園児の保護者)に來園を依頼し、話を聞く。

導入 5分	保護者と赤ちゃんの紹介をA児にしてもらう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ちゃんだ</li> </ul> 赤ちゃんの名前を知っている子も知らない子も真剣に聞いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼児から赤ちゃんが見えやすいような隊形で座る。</li> </ul>
展開 10分	<p style="text-align: center;"><b>赤ちゃんについて知ろう。</b></p> <p>A児に質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「誕生日はいつですか。」</li> <li>・ 「男の子ですか。女の子ですか。」</li> <li>・ 「赤ちゃんのお世話はどんなことをしますか。」</li> </ul> <p>教師が質問の手本を見せた後、幼児に、保護者やA児へ質問をさせる。</p> <p>教師から保護者に質問する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「赤ちゃんができたときわかった時の気持ちはどうでしたか。」</li> <li>・ 「赤ちゃんがおなかの中にいた時、どのように過ごしていましたか。」</li> </ul> <p>みんなの母親も同じ気持ちだったことを知らせる。</p> <p>おなかの赤ちゃんと同じ重さの物を提示する。</p> <p>感想を聞く。</p> <p>重たいのに、なぜお母さんはがんばれたのか保護者に聞く。</p>	<p>A児は得意そうに教える。</p> <p>質問がある幼児は元気に手を上げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 赤ちゃんの名前は どうして その名前にしたのですか</li> <li>・ 赤ちゃんが生まれたときは、どんな気持ちでしたか...</li> </ul> <p>保護者の話を真剣に聞いている。</p> <p>話を聞きながら、更に質問したり、自分のことや弟や妹の経験を話し出したりする幼児もいる。</p> <p>うれしそうな表情をする。</p> <p>おなかの赤ちゃんと同じ重さの物を持つてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 重い、とすぐ下ろす子</li> <li>・ 軽い、とがんばって持つ子</li> <li>・ 持てない、とやめる子</li> </ul> <p>それぞれ自分の感想を言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ A児が兄または姉としての気持ちをもって話せるように援助する。</li> <li>・ 幼児の疑問にありのままに答えていくようにするため、保護者の話を教師が補足したり、わかりやすく説明したりする。</li> <li>・ 事前に保護者に教師からの質問内容を伝えておく。</li> <li>・ お母さんがとても大事なおなかの赤ちゃんをはぐくんでいたことを感じられるようにする。</li> <li>・ 自分も同じような気持ちで誕生を喜ばれたことを感じられるようにする。</li> <li>・ 子供がより実感をもてるようにエプロンに重りを入れた物を作って置く。 (資料3)</li> </ul>
まとめ 5分	<p style="text-align: center;"><b>お母さんは大変だけど、とても大事な赤ちゃんだからがんばれるんだ。みんなもそうなんだ。</b></p> <p>自分がおなかにいた時や生まれる時の話を保護者に聞くように投げかける。</p> <p>赤ちゃんを近くで見たり、触らせてもらったりする。</p> <p>赤ちゃんとお礼を言う。</p>	<p>感想を言う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 暖かい・柔らかい・かわいい...</li> </ul> <p>お礼を言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学級の保護者に活動の様子を降園時や便りで知らせる。 (資料4)</li> </ul>

5 資 料

【資料1】 掲示している『赤ちゃんの時の写真』



みくちゃん

なぜそのなまえをつけたのですか？ どんなあかちゃんでしたか？

<p>そそっかしいママの名前が</p> <p><b>くみ</b></p> <p>ママとは反対の、しっかりした娘に育ちますように... という願いを込めて。</p> <p><b>みく</b></p> <p>と、パパがつけました。</p>	<p>目をキョロキョロさせて 『ハオ〜♡ハオ〜♡』と 可愛い声を出す、好奇心が グルグルの赤ちゃんでした。 ひりひりも いろんな音を出して おしゃべりを楽しんでいる... そんなところは やっぱり、ママ そっくり!!</p>
---	--



【資料2】 読み聞かせをした絵本

長野ヒデ子作 「おかあさんがおかあさんになったひ」 童心社 2004年

長野ヒデ子作 「おとうさんがおとうさんになったひ」 童心社 2003年

【資料3】 エプロンに重りを入れた物



【資料4】「学級便り」(抜粋)

### 特別なお客様です！

週の予定で「お客様がくる」と知らせてあったので、子供たちは興味津々。いらっしゃる先生たちにご挨拶しては私のところに確かめに来たり、園長先生だと勘違いしたり。



以前に読んだ「おかあさんがおかあさんになるひ」「おとうさんがおとうさんになるひ」の本のことを思い出し、みんなも赤ちゃんだったけれど、こんなに大きくなったことを話すと「うん、そうだよ。」の反応。

さて、いよいよお客様をご案内です。「Aくんのお母さんだ。」「ちゃんだ」と大歓待のもも組さんでした。まずはお兄ちゃんであるAくんに、二人を紹介してもらった後、ちゃんのことについて聞いてみました。「男の子ですか。女の子ですか。」「誕生日はいつですか。」「赤ちゃんのお世話はどんなことをしますか。」にさすがお兄ちゃんは、すらすらと答えてくれ、ぐっとお兄さんの風格の受け答えです。みんなニコニコしたりうなずいたりして聞いていました。

そして次に、みんなからお母さんへの質問コーナーです。「どうしてちゃんという名前にしたのですか。」「赤ちゃん元気になってね。」「生まれた時どんな気持ちでしたか。」などの質問が出され、お母さんが丁寧に答えてくださいました。特に「生まれた時は大変だったけれど感動しました。」と言う答えに「泣いちゃった？」との声も。そんな会話のやり取りから、子供たちは自分たちも生まれた時そうだったのかな、赤ちゃんの時ってそうだったんだ。と思いをめぐらしていたのではないのでしょうか。